

仙台市域における温室効果ガス排出量の概要

～令和2年度（2020年度）確定値および令和3年度（2021年度）速報値～

(1) 温室効果ガス排出量・吸収量およびエネルギー消費量

令和2年度（2020年度）確定値*の推計結果は、排出量で721万t-CO₂となり、令和元年度（2019年度）と比較して4.9%減少、基準年である平成25年度（2013年度）と比較して20.9%減少しました。令和2年度（2020年度）は、主にエネルギー転換部門及び産業部門からの排出量が減少しています。

令和3年度（2021年度）速報値*の推計結果は、排出量で745万t-CO₂となり、令和2年度（2020年度）と比較して3.3%の増加、基準年である平成25年度（2013年度）と比較して18.3%の減少と見込まれます。今後公表される各種統計データをもとに、確定作業を行ってまいります。

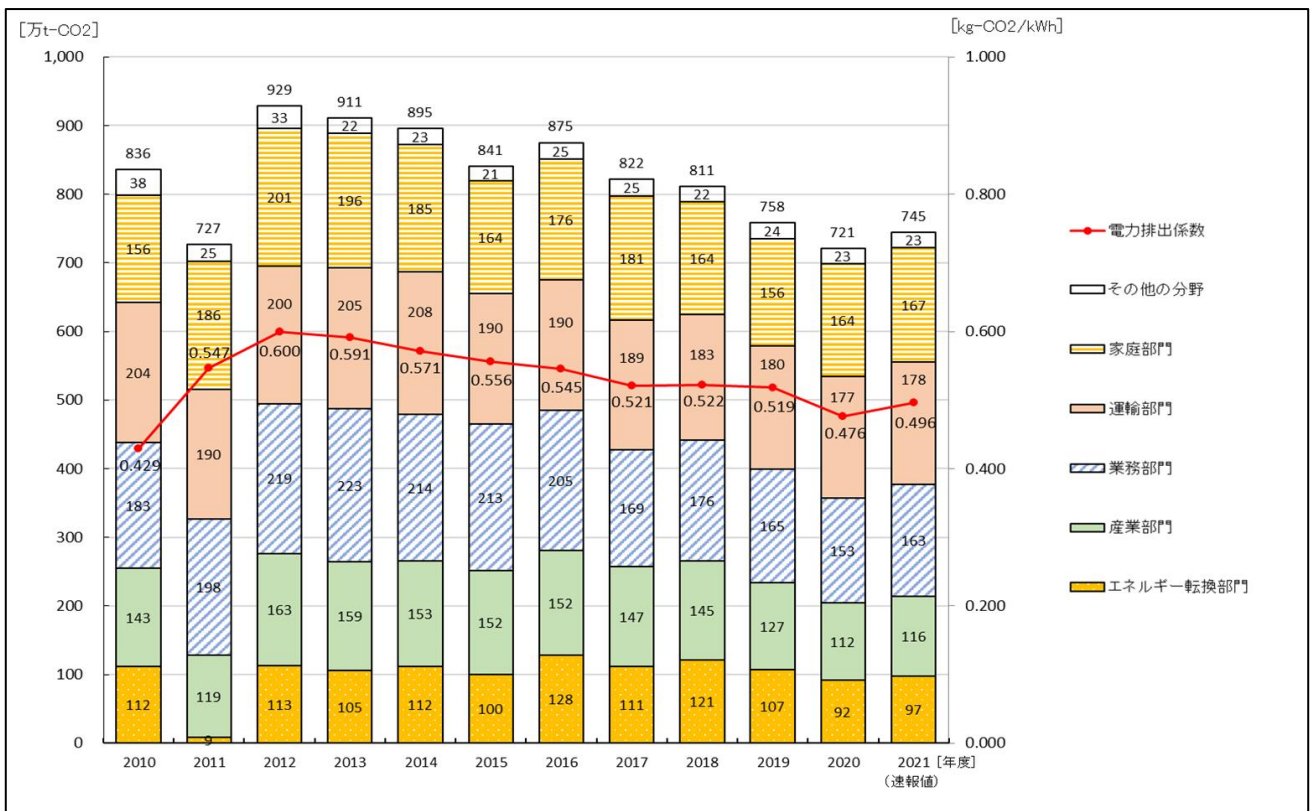


図1 仙台市域の温室効果ガス排出量の推移

※速報値・確定値とは

温室効果ガス排出量は、国・県・業界団体等の公表する各種統計データにより推計するものですが、データが揃うまでに一定の時間を要することから、推計結果（確定値）が出るのは当該年度の2年後になります。このため、より迅速に温室効果ガスの排出状況を推測するために、統計データの一部に推計値（前年度値等）を用いた推計が速報値です。速報値は上記の理由から確定値とは異なる可能性があります。また、確定値であっても今後各種統計データ年報値の修正、算定方法の見直し等により変更される場合があります。

なお、仙台市地球温暖化対策推進計画の改定に合わせ、温室効果ガス排出量の推計方法の見直しを行っており、推計には「温室効果ガス削減アクションプログラム」の実績値、資源エネルギー庁「都道府県別エネルギー消費統計」などを使用しています。

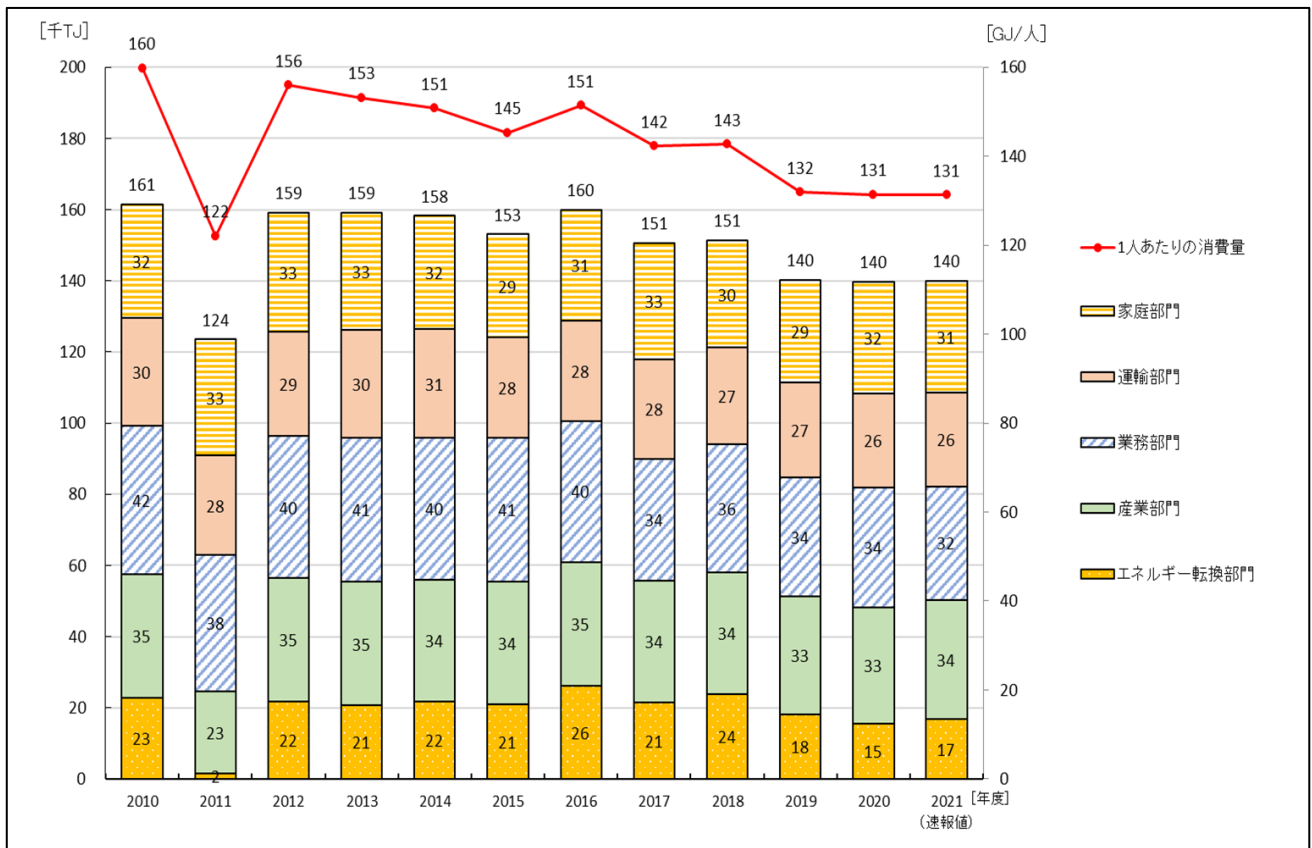


図3 仙台市域のエネルギー消費量の推移

(2) 温室効果ガス排出量の構成比（全国と仙台市の比較）

温室効果ガス排出量の大部分を占めるエネルギー起源二酸化炭素の部門別割合を全国と比較した場合、仙台市は産業部門の割合が低く、業務部門、運輸部門及び家庭部門の割合が高いことがわかります。これは、仙台市は大規模な製造業が少なく、オフィスでの空調や自動車の利用、家庭での給湯・暖房などのエネルギー消費が多いためと考えられます。

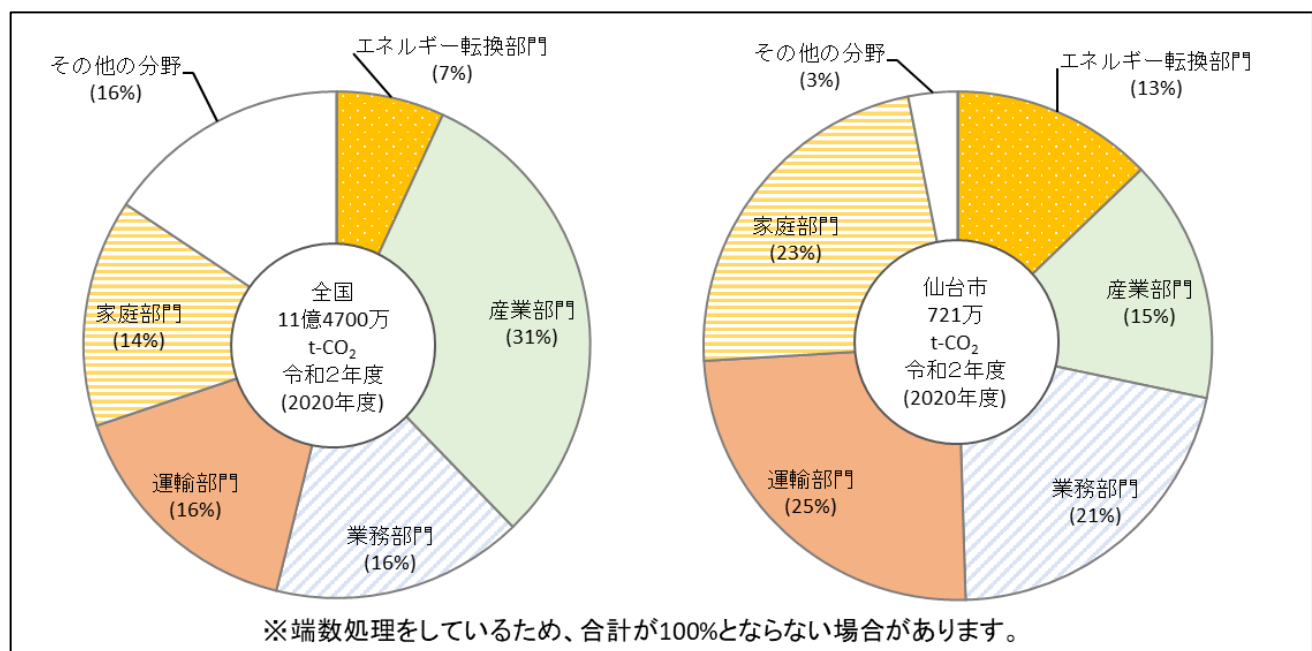


図4 温室効果ガス排出量の構成比（全国と仙台市の比較）